

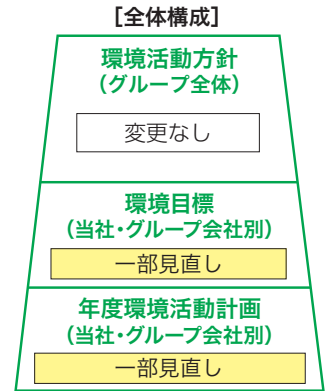
# IV

## 2015年度実績を踏まえた今後の取組み (2016年度九州電力グループ環境アクションプラン)

2016年度九州電力グループ環境アクションプランについては、環境に関する国内外の動向や、2015年度の活動実績、社外からの評価結果等を踏まえて見直しを行いました。

具体的には、電気事業全体で新たに設定したCO<sub>2</sub>排出削減目標の達成に向けた、原子力発電所の再稼働と安全・安定運転の継続や、火力発電所の新設時等における経済的に利用可能な最良技術(BAT)活用、再エネの受入量拡大に向けた実証試験の実施に加え、地域と協調した環境活動の推進として、地域での環境活動や次世代層対象の活動継続などを織り込んでいます。

2016年度も引き続き持続可能な社会の実現に貢献していくために、環境アクションプランに基づく活動の着実な実施により、九州電力グループ一体となって事業活動と環境を両立する「環境経営」を推進していきます。



### 環境目標に追加した項目

項目		2016年度の目標値	見直し理由等
販売電力量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)		極力抑制	電気事業全体でCO <sub>2</sub> 排出削減目標の設定を受けて定性目標を設定
火力新設時等のBAT活用によるCO <sub>2</sub> 排出削減量 (万トン-CO <sub>2</sub> )		極力削減	定性目標を設定
再生可能エネルギー開発量目標 (万kW)		2030年に400 (国内外で+250)	「九州電力グループ中期経営方針」に合わせて、再エネ開発量を目標に追加
エネルギー・環境教育	エコ・マザー活動実施回数 (回)	250	お客さまの関心が高いエネルギー・環境教育に関する取組みについて、社員の動機付けや取組意識の高揚を図るため追加
	出前授業実施回数 (回)	積極的実施	

### 2016年度の環境活動計画の概要

#### ■ CO<sub>2</sub>にかかる国内外の動向を踏まえた主な取組み

国の2030年の長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)を踏まえた電気事業全体のCO<sub>2</sub>排出削減目標(2030年度に排出係数0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWh程度(使用端)、火力新設時等のBAT活用による最大削減ポテンシャル約1,100万トン-CO<sub>2</sub>)達成に向けて、以下の取組みなどを実施します。

#### ① 原子力発電所の再稼働と安全・安定運転の継続

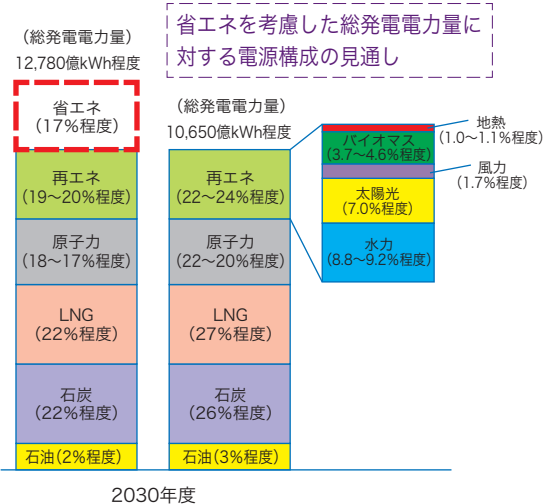
エネルギーミックスの達成とCO<sub>2</sub>排出抑制に必要な、<sup>げんかい</sup>玄海原子力発電所3、4号機の再稼働に向けた国の審査・検査への適切な対応や、原子力発電所の安全・安定運転の継続を実施します。

#### ② 火力発電所の新設時等のBAT活用

最新鋭で高効率の新大分発電所3号系列(第4軸)の開発(2016年6月運転開始)など、火力発電所の新設時等にBATを活用することで、電気事業全体のCO<sub>2</sub>排出削減目標達成に向けた省エネ法の火力熱効率に関するベンチマーク指標の見直しに対応します。

#### ③ 再生可能エネルギーの積極的な開発・導入と最大限の受入れ

地球温暖化対策、並びに国産エネルギーの有効活用面で優れた電源であることから、地熱や水力を中心に再生可能エネルギーの開発・導入にグループ一体となって取り組むとともに、バランスのとれた再エネの最大限の受入れのため、大容量蓄電システムやきめ細やかに太陽光発電の出力制御を行うシステムを活用していきます。



用語集をご覧ください

- >>再生可能エネルギー
- >>環境経営
- >>熱効率
- >>ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)
- >>蓄電池
- >>持続可能な社会
- >>ヒートポンプ
- >>地球温暖化
- >>エネルギーミックス
- >>エネルギー・環境教育
- >>社有林
- >>LNG(液化天然ガス)
- >>バイオマス

[サルーラ地熱 I P Pプロジェクト]

国内で培った地熱発電技術を活かしたインドネシア・サルーラ地熱 I P Pプロジェクトにおいて、2016年度に初号機が運転を開始する予定です(全3機(2018年度まで運転開始予定)出力合計:32万kW(当社持分:8万kW(25%)))。



噴気試験の様子

④ お客さまの省エネ・低炭素化に貢献する取組み

エネルギーミックスは、電力需要において省エネによる総発電電力量17%削減(対策前比)を前提としていることから、お客さまへの省エネ・節電の情報提供などの取組みの継続に加え、HEMSの活用など、お客さまの一層の省エネ・低炭素化に貢献する取組みを実施します。

[電力メーター情報発信サービス]

お客さまに電気の使い方を工夫していただけるよう、スマートメーターで計測した電力使用量等のデータをお客さま宅内のHEMS機器に向けて発信するサービスを実施します。

[豊前蓄電池変電所]

豊前発電所構内において、世界最大級の大容量蓄電システムを備えた豊前蓄電池変電所(容量:30万kWh)の運用を開始(2016年3月)しました。再エネ電源の出力制限をできる限り回避することを目的に、再エネで発電した電気を蓄電池に充電し、夜間に放電する実証試験に取り組んでいます(実施期間:2015年度~2016年度(予定))。



豊前蓄電池変電所 蓄電池設備

[省エネに関する研究]

法人のお客さま向けに新たに開発したヒートポンプシステムによる産業用・業務用空調設備のモニター実証試験や、一般のご家庭向けに家電とガス機器の組合せによる省エネに関する研究などを実施します。

■ 地域と協働した環境活動の推進への主な取組み

お客さまから信頼され、選ばれ続けるために、お客さまや地域・社会の声にお応えすることができるよう、社外アンケートや社外専門家等のご意見を踏まえ、環境分野で当社が実施すべき社会貢献活動として期待が大きい、「地域での環境保全活動」や「次世代層対象の環境教育」を継続します。2016年5月には、地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する活動を更に充実することを目的に「九電みらい財団」を設立しました。以下の①と②の活動については、本財団が主体となり、活動内容の充実を図ります。

① 地域ニーズに沿った当社の柱となる環境活動の展開

くじゅう坊ガツル湿原(ぼく)帯における環境保全活動を継続していくため、今後も、環境省・地元協働先・社員ボランティア等と連携を図っていきます。また、社会的ニーズの高い体験型教育を「くじゅう九電の森」(山下池周辺の社有林)で実施するとともに、活動の訴求力を高めるため、くじゅうエリアの取組みとして一体的な情報発信を実施します。



くじゅう坊ガツル野焼き活動

② 九州各地における環境活動の実施

これまでの「九州ふるさとの森づくり」を通じて取り組んできた地域との協働や市民参加による活動を充実させるため、九州各地において、次世代層を対象に環境保全と環境教育を組み合わせた活動を新たに検討・実施します。

③ 自治体や教育機関等との連携による次世代層へのエネルギー・環境教育の実施

お客さまの期待が大きい次世代層教育に関して、「子どもへの環境教育支援」と「保護者への環境情報提供」を目的としたエコ・マザー活動や、小中学生等を対象とした「エネルギー・環境」出前授業を引き続き実施するとともに、社員の動機付けや取組意識の高揚を図るため、環境目標を追加しました。



エコ・マザー活動